



「腰がぬける」って、^{ほんとう}本当にあるの

^{だいのう}大脳からの^{めいれい}命令で、^{うご}動けなくなるため

「腰がぬける」というのは、^{こし}腰の^{かんせつ}関節がはずれた^{じょうたい}状態ではありません。^{うご}動こうと思っても^{おも}動けない^{じょうたい}状態になることで、これは、^{だいのう}大脳のはたらきによって起こります。

^{だいのう}大脳のはたらきには、しげきがあると、すぐ^{こうどう}行動になってあらわれる、プラスのはたらきと、^{しぜん}自然の^{こうどう}行動を止めてしまう（^{よくせい}抑制）、マイナスのはたらきがあります。

^{のう}脳からの^{めいれい}命令は、^{しんけい}神経によって^{からだ}体に伝えられますが、^{ひじょう}非常におどろいたときなど、^{だいのう}大脳の中に、^{ひじょう}非常に^{きょうりょく}強力な、^{こうどう}行動を止めてしまう^おマイナスのはたらきが起こります。それが^{しんけい}神経を^{つた}伝わって^{からだ}体に伝えられ、^{からだ}体の^{うんどう}運動など、すべての^おのはたらきをおさえます。そのため、^{うご}動こうという^{いし}意思があるのに、^{うご}動くことができなくなる^{じょうたい}状態になり、これを、「腰がぬける」といっているのです。

^{あし}足が^おすくむのも、^{おな}同じ^{りゆう}理由から

^{たか}高い^{ところ}所に^{のぼ}登ったときなど、^{あし}足が^おすくむのも^{おな}同じ^{りゆう}理由からです。

「すくむ」というのは、^おおそれのために、^み身が^{ちぢ}縮んで^{うご}動けなくなることで、これも、^{だいのう}大脳のはたらきによって起こります。

^{たか}高い^{ところ}所に^{のぼ}登ったりして、^{かん}おそろしさを感じたときや、^み身の^{きけん}危険を感じたときなどには、^{だいのう}大脳からの^{めいれい}命令が^{しんけい}神経を通して^と体^{からだ}に^{つた}伝わり、^{うご}動くのを止めてしまうのです。そのため、^み身が^{ちぢ}縮んで^{うご}動けなくなり、「すくむ」ことになるのです。

ですから、「腰がぬける」のも、^{あし}足などが「すくむ」のも、^{きけん}危険な^{じょうたい}状態から、^{じぶん}自分の^み身を守^{まも}ることにもなっているのです。（監修・保志 宏）

